



岐阜県政記者クラブ加盟社各位

令和7年7月31日（木） 岐阜県発表資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
病虫害防除所	企画情報係	鈴木	直 通 058-239-3161 F A X 058-234-0767
農産園芸課	ぎふ清流GAP 推進係	猪原 増田	内 線 4115 直 通 058-272-8428 F A X 058-278-2692

「みんなで考える病虫害対策セミナー ～カメムシと ハスモンヨトウの生態と防除～」を開催します

近年の激しい気象変動は、農業生産に大きな影響を及ぼし、病虫害の発生量の増加や被害の長期化に加え、化学農薬に対する抵抗性の発達を助長する恐れがあります。

昨年は、斑点米カメムシ、果樹カメムシ、ハスモンヨトウが多発し、様々な農産物の収量・品質に多大な影響が生じました。

そこで、昨年多発した病虫害を中心に、発生状況や防除対策について知見を深めるとともに、今後の発生に備え、効果的な方策を協議・検討することを目的に、下記のとおりセミナーを開催します。

記

1 日 時

令和7年8月7日（木） 13：30～16：30

2 場 所

岐阜県農業技術センター 3階 講堂 （岐阜市又丸729）

3 内 容

13：30～13：35 開会

13：35～14：45 カメムシ類の生態と対応・対策

講 演：イネカメムシの生態と薬剤抵抗性の発達について

愛知県農業総合研究センター ^{いしかわ ひろし} 石川 博司 氏

報 告：岐阜県の本年のイネカメムシ及び果樹カメムシの発生動向と対策

岐阜県病虫害防除所 ^{さえだ としひと} 小枝 俊仁

14：45～16：00 ハスモンヨトウの発生特性と対策

講 演：三重県におけるハスモンヨトウを中心としたチョウ目害虫の発生状況と傾向

三重県病虫害防除所 ^{かとう ひろゆき} 加藤 博之 氏

報 告：岐阜県におけるハスモンヨトウの昨年の発生要因と本年の発生動向と対策

岐阜県病虫害防除所 ^{かみや かつみ} 神谷 克巳

16：00～16：30 意見交換

4 参加者 約80名

生産者、病虫害防除員、（一社）日本植物防疫協会、JA、国、県

＜病虫害防除所＞

病虫害防除所は、植物防疫法（昭和25年5月4日制定 法第151号）第32条に基づき、地方における植物の検疫及び防除に資するため各都道府県に設置され、主要な事務は植物の検疫、防除の企画や指導と協力、病虫害の侵入調査や発生予察調査等になります。本県は、岐阜県農業技術センター内に設置しています。

＜薬剤抵抗性＞

同じような作用を有する薬剤（農薬）の使用が繰り返されることにより、当該薬剤を使用しても十分な効果が得られなくなることを薬剤抵抗性といいます。要因は、当該薬剤に対し遺伝的に抵抗性を持った病虫害が生き残るためです。

＜斑点米カメムシ＞

水稻に被害を及ぼす数種のカメムシの総称で、不稔（粃が空になること）や斑点米（玄米が変色する）などの被害をもたらします。水稻の穂が出ると飛来し、針状の口を粃に刺して中身を吸うことで被害が生じます。不稔により減収することや、玄米に斑点が生じることで著しく商品価値が下がります。

＜果樹カメムシ＞

果樹園に飛来し、被害をもたらす数種のカメムシの総称です。針状の口を果実に突き刺し、養分を吸汁することにより、果実の生育不良や変形、落果、品質低下を引き起こします。

＜ハスモンヨトウ＞

幼虫はダイズや野菜、花き類など様々な作物を食害し、岐阜県では特に8月から10月にかけて被害が増加する傾向にあります。近年は秋期の高温化により、発生量の増加や、発生時期が長期化し問題となっています。